

長期海外留学プログラム報告



2010/03/25

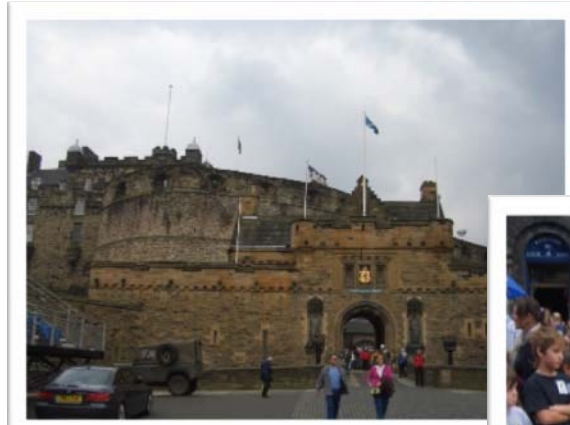
言語応用専攻 英語教育学専修コース2年
吉田麻里子

内容

- エジンバラとは？
- エジンバラ大学のMSc in LTとは？
コース / 日程 / 学期 / 評価
- 修士論文
“A Critique of Listening Activities in ‘Oral Communication I’ textbooks in Japan and Examples of Adaptation of the Materials”

エジンバラとは？

- スコットランドの首都
- 世界遺産
 - 旧市街
 - 新市街
- “Festival city”

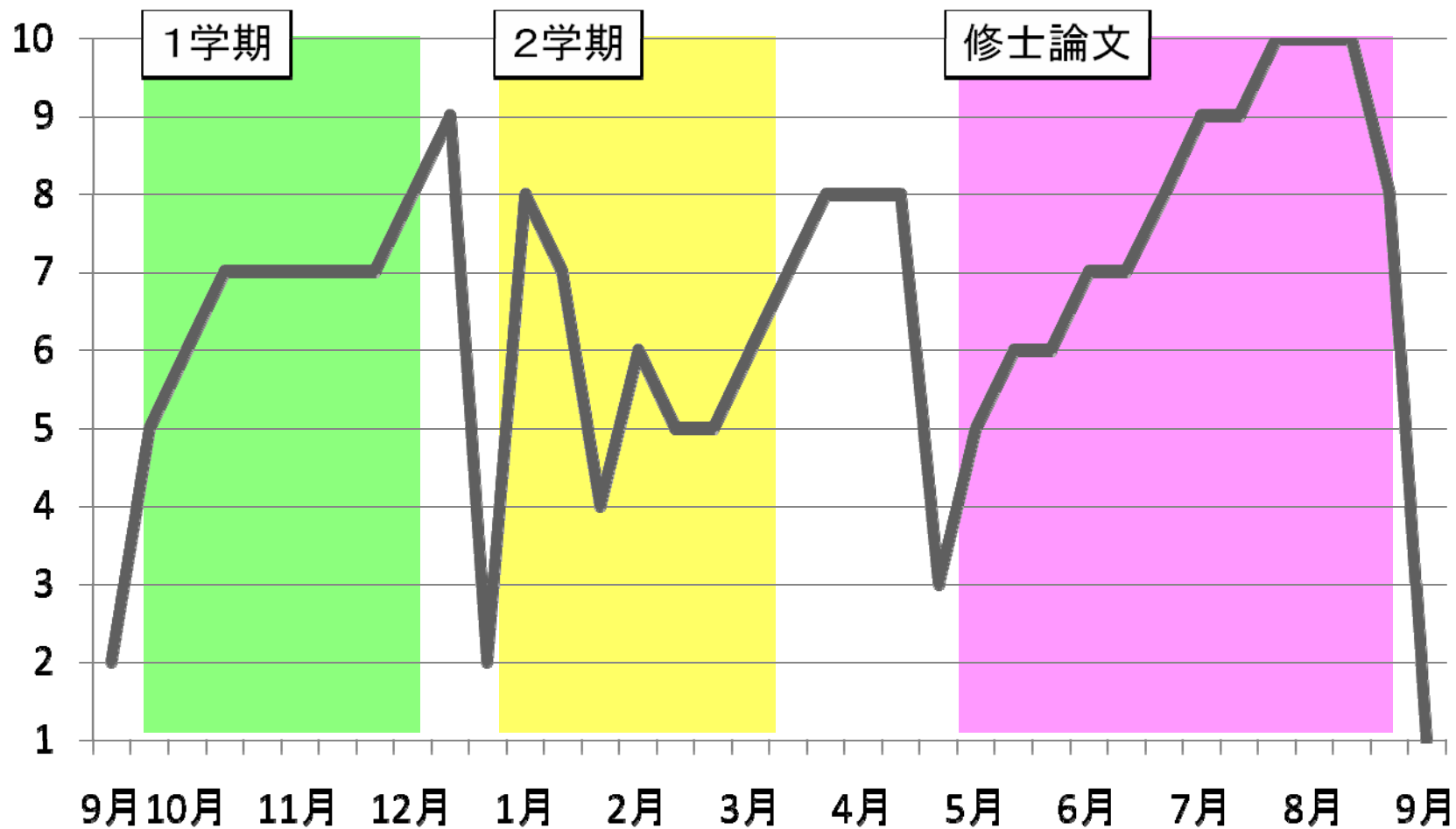


MSc in Language Teachingとは？

- 1年間の修士課程プログラム
- 言語教師を対象
≠ MEd in TESOL
- 4つの必修科目＋2つの選択科目
＋ 修士論文 (15,000語)
- 学生は9人 (フルタイム6人/パートタイム3人)
中国、台湾、ルーマニア、スペイン、
スコットランド、フランス、日本



日程 (2008/09 - 2009/09)



1学期(9月~12月)

月	火	水	木	金
Language, Education & Society	Language learning and Teaching		<i>Language Description for Language Teaching</i>	<i>Language Learning and Teaching</i>
	Language description for Language Teaching	<i>Language Education Research Methods</i>	(Class meeting)	
Professional Practice				
	TESOL and the learner			
Language, Education & Society		German	<i>Professional Practice</i>	
	Language Education Research Methods			

- Language, Education and Society
- Professional practice
- Language learning and teaching
- Language description for language teaching
- Language education research methods
- TESOL and the learner

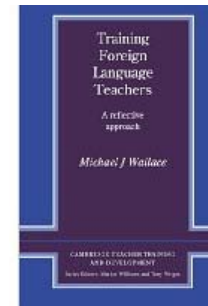
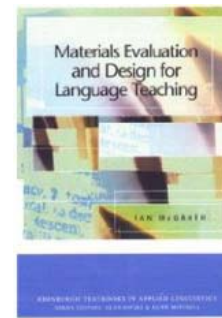
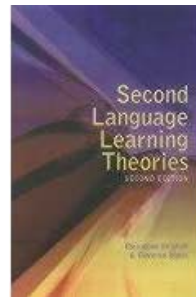
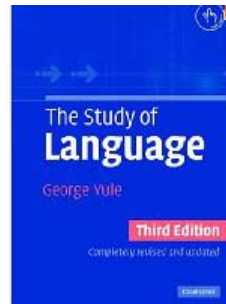
2学期(1月～3月)

月	火	水	木	金
			Teacher education and supervision for TESOL	
		Teaching the Spoken Language		<i>Teaching the Spoken Language</i>
		German	Evaluation and Design of TESOL Materials	
		Gaelic		

- Teaching the spoken language
- Teacher education and supervision for TESOL
- Evaluation and design of TESOL materials

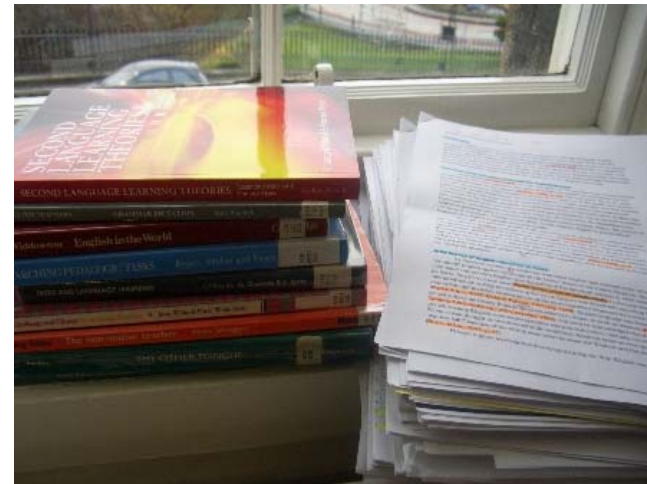
教科書

- Hedge, T. (2000). *Teaching and learning in the language classroom*. OUP.
- Yule, G. (2005). *The study of language*. CUP.
- Mitchell, R. & Myles, F. (2004). *Second language learning theories*. Edward Arnold.
- McGrath, I. (2002). *Materials evaluation and design for language teaching*. EUP.
- Wallace, M. (1991). *Training foreign language teachers: A reflective approach*. CUP.
- Tomlinson, B. (1998). *Materials development in language teaching*. CUP.



評価

- 1つの科目につき課題が1～3つ
(1,500～5,000語)
- 1つの課題につき採点者が2人
- フィードバック・シート



授業から・・・

- 文献や先行研究で言われていることと、実践をつなげること
(マイクロ・ティーチング、授業観察)
- 教える内容と教え方をリンクさせること
- 文脈に合わせて自分で判断すること
- 内省(日記)



修士論文 – 日程

5月: プロポーザルを提出
先行研究を読む

6月: ワークショップでプレゼンテーション
指導教員の割り当て
指導教員と面談

7月: 論文執筆
指導教員と面談

8月: 論文執筆



修士論文 – はじめに

題目

A Critique of Listening Activities in “Oral Communication I” textbooks in Japan and Examples of Adaptation of the Materials



研究動機

現実のリスニングで
求められること

文献で勧められる
指導法

?

⇔

教室内の
リスニング活動

修士論文 – 概略

1. 現在のリスニング指導の原則
+ 教科書分析・評価

先行研究レビュー
(10 ページ)

2. リスニング活動分析のためのチェックリスト

3. 教科書分析

- チェックリストによる分析
- 詳細な分析

分析
(9 ページ)

4. 考察

考察
(7 ページ)

5. 教材改訂のための提案

示唆
(13 ページ)

修士論文 – チェックリスト

(チェックリスト項目の例)

5. 手続き	A1	A2	A3		
5.1. リスニング前					
15. 聴く前に文脈情報が提示されているか？	✓	✓	✓		
16. 理解に必要な情報が十分に提示されているか？		✓			
17. 聴く前に目的が明示されているか？		✓	✓		
*15. 聴く前に文脈情報が提示されているか？				0-1-2-3-④	
*16. 理解に必要な情報が十分に提示されているか？				0-①-2-3-4	
*17. 聴く前に目的が明示されているか？				0-1-2-③-4	

- 28 項目
- 3冊の教科書から2課ずつ
- 2レベルの項目（当該活動／当該課）

修士論文 – 結果

- 自然な発話の特徴がある程度含まれる
- 英語変種の種類は限られる
- 語の発音への配慮が不足
- 文字通りの理解を求める問い
- 全ての詳細を聴かせる活動が多い
 - テキストの後に質問が提示される場合
 - テキストの長さに対して情報量が多い場合
- サブスキル、ストラテジー、双方向のリスニングへの言及が少ない
- 教師主導で個人で取り組む活動が多い

修士論文 – 教材改訂

教材に含まれる
／欠けているもの

先行研究で
推奨されている指導法

日本の教室環境

個々の教師による
教材改訂の提案

修士論文 – 活動例 (1)

<オリジナル>

- 1) 教師が場面設定をし、いくつかの語を教える
- 2) 教師がCDを再生する
- 3) 生徒はカナダのキャンプについての
テキストを聴く
- 4) 生徒は質問文を聴く
- 5) 生徒は答えを書く

修士論文 – 活動例 (1)

<改訂後>

- 1) 教師が場面設定をし、「キャンピングカー」を英語で何と言うか尋ねる
- 2) 1回目
 - 「キャンピングカー」は英語で何と呼ばれているか？
 - 3人はキャンプで何をするか？
- 3) 生徒がグループで話し合う
- 4) 2回目
 - 聞こえない部分の語の意味は？
- 5) 生徒がグループで話し合う

事前に語彙を教えない

聴くモチベーションを上げる

L1/L2の違いに気付かせる

質問文を使わない

生徒同士のインタラクション

意味を推測させる

生徒同士のインタラクション

修士論文 – 活動例 (2)

<オリジナル>

- 1) 生徒はいろいろな旅行で行きたい場所を考える
- 2) 教師がCDを再生する
- 3) 生徒は修学旅行についてのテキストを聴き表を埋める
- 4) 生徒は自分が行きたい場所についてクラスで発表する

修士論文 – 活動例 (2)

<改訂後>

- 1) 教師が修学旅行で行きたい場所について尋ねる
- 2) 他の2人の教師への、修学旅行の行き先についてのインタビュー録音を再生
- 3) 生徒はテキストを聴き、表を埋める
- 4) 生徒はグループで話し合う
- 5) 教師はディスコース・マーカースに生徒の注意を向ける
- 6) 生徒は修学旅行で行きたい場所についてスピーチを準備する
- 7) 生徒はスピーチを行う

よりテキストに沿った質問

より自発的な発話

生徒に親しみやすい内容

聴きとる情報量を少なくする

生徒同士のインタラクション

テキストから発展的学習

対象項目を使う機会

修士論文 – 活動例 (3)

<オリジナル>

- 1) 教師がCDを再生する
- 2) テキストを聴き、空欄を埋める
- 3) もう1度聴き、答えを確かめる

So when I opened the letter, I () really
().

修士論文 – 活動例 (3)

<改訂後>

インフォメーション・ギャップ

- 1) 生徒に異なるハンドアウトを渡す
- 2) 教師がCDを再生する
- 3) 生徒はテキストを聴き、空欄を埋める
- 4) 生徒はペアで答えを確認する

生徒同士で
答え合わせができる

A:
So when I opened the letter
I () really ().

B:
So () I opened the ()
I was really disappointed.

修士論文 – 研究の限界

- 限られたデータ
 - 1つの教科書に対し2課
 - 生徒用の教科書のみ
 - 音声教材のみ
- チェックリストにも改善の余地あり
- チェックリストの使用可能性



修士論文 – 示唆

- チェックリストの活用
 - 特定の文脈に合わせて
修正、傾斜配点
- 推奨された指導法を基にした教材改訂の例
- 教材分析の可能性
 - 指導に関する信念を意識



修士論文から…

- リスニングを「スキル」として「訓練」する
- 教師による内省の可能性
- 研究、理論、実践をどうつなげるか？
 - 実践により注目すべき
 - 研究／理論をどう使うかを考えるべき
 - 研究／理論を個人の問題として捉える



Thanks!

